

- 問1 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。
 - 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。
 - 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることが目的となったため。
 - 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。
- 問2 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
- 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。
 - 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。
 - 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。
 - 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。
- 問3 弥生時代に大陸から伝来した金属器に関する統計資料において、武器や工具として実用的に使われたものとは別に、主に祭祀や儀式の道具として分類される金属器があります。銅鐸や銅鏡などが代表例である、この金属器の名称として適切なものを選びなさい。（2020年 熊本県公立入試 類似）
- 須恵器
 - 鉄器
 - 打製石器
 - 青銅器
- 問4 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため
 - 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため
 - 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため
 - 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため
- 問5 島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡では、大量の銅剣や銅鐸が一箇所に埋められた状態で発見されている。これらの金属器が、当時の社会において果たしていた役割について説明したものととして、最も適切なものはどれか。（2022年 島根県公立入試 類似）
- 米などの収穫量を正確に計測するための度量衡として用いられた
 - 五穀豊穡などを祈るための祭祀用の道具として用いられた
 - 他の集落との戦争において、殺傷能力の高い武器として実戦で用いられた
 - 大規模な森林を切り開くための伐採具として用いられた
- 問6 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
 - 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。
 - 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
 - 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
- 問7 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落
 - 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落
 - 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落
 - 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落
- 問8 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。（2026年 愛知県公立入試 類似）
- ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた
 - 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた
 - アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた
 - 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた
- 問9 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）
- 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
 - 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
 - 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
 - ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。
- 問10 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた
 - 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた
 - 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた
 - 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた
- 問11 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い濠や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため
 - 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため
 - 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため
 - 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防衛を固める必要があったため
- 問12 長崎県杵岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
- 『宋書』倭国伝
 - 『魏志』倭人伝
 - 『漢書』地理志
 - 『後漢書』東夷伝

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問2	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百済や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとした。
問3	答え 4 青銅器	弥生時代には、鉄器とほぼ同時期に大陸から青銅器が伝わりました。鉄器がその硬さを活かして武器や農具、工具として実用的に使われたのに対し、青銅器は磨くと光り輝く性質などから、豊作を祈る祭り（祭祀）や村の重要な儀式に用いられる特別な道具として重宝されました。
問4	答え 3 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稲耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問5	答え 2 五穀豊穰などを祈るための祭礼用の道具として用いられた	弥生時代の青銅器は、刃が薄く作られているものや、大型化して音が鳴らなくなったもの（銅鐃）があることから、武器や道具としての実用性は低かったと考えられています。これらは集落の共同体で共有され、五穀豊穰や魔除けを祈るための「祭祀の道具」として、神聖な儀式に用いられていました。
問6	答え 3 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問7	答え 2 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問8	答え 4 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問9	答え 3 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問10	答え 2 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問11	答え 4 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問12	答え 2 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いつつも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。